



調査区全景(上段:北西から,下段:西から)

今年度の発掘調査の成果

- ①本丸取付台の建物は、建物の南端を示すと考えられる石列を検出したことで、昨年度調査と合わせて建物規模を推定することが可能となりました。また、礎石の柱間寸法が明らかとなったことで内部の空間利用を考える手がかりが得られました。
- ②天主台石垣東面が全域にわたって崩落していることを確認しました。一方で、穴倉へと続く南端の石垣については、昭和の修理工事以前に積み直されている可能性が高いことがわかりました。

令和6年度 特別史跡安土城跡調査整備事業に伴う 天主台周辺地区発掘調査概要

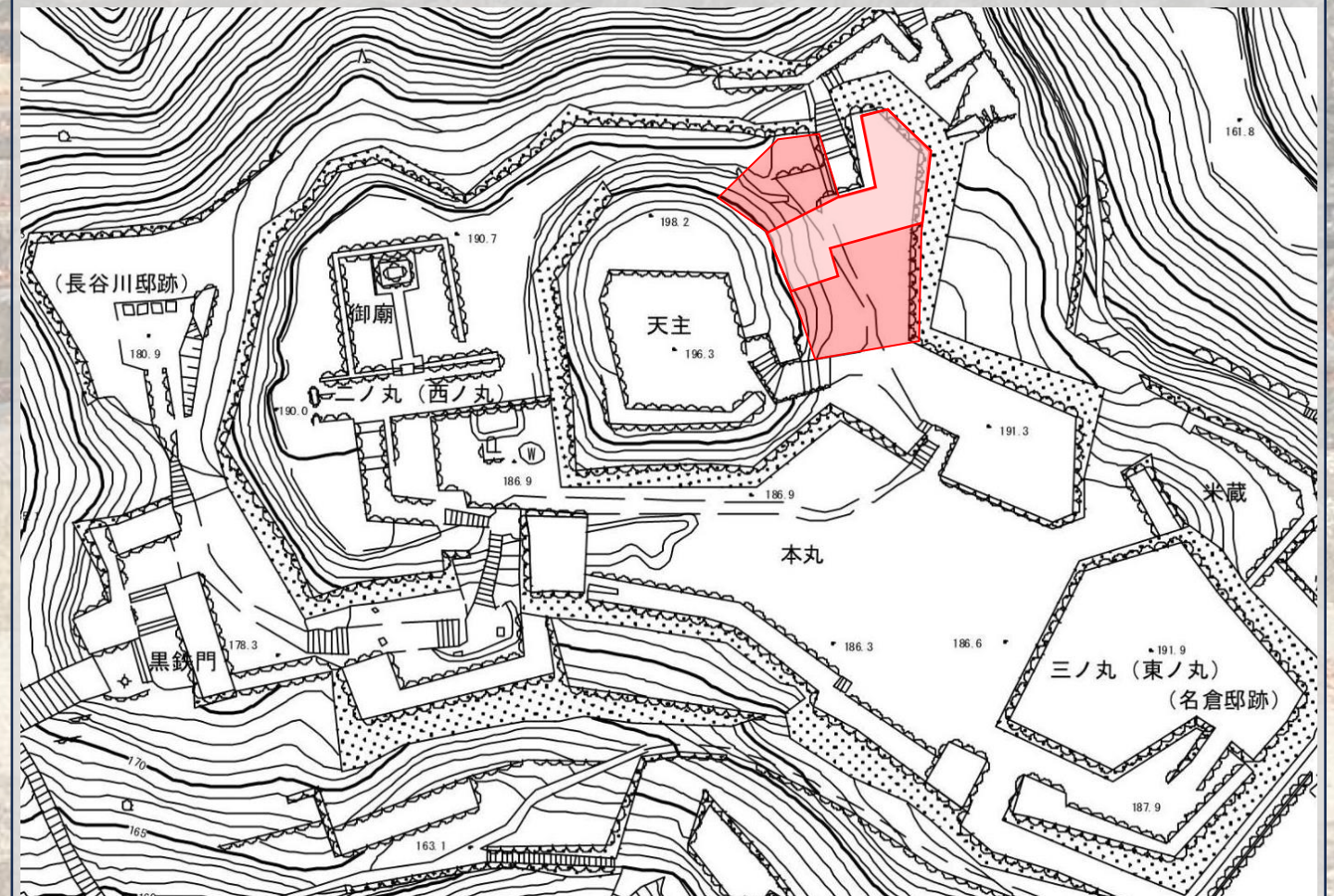
調査期間 令和6年8月1日～令和7年1月31日(予定)

調査主体 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課

調査箇所 特別史跡安土城跡(近江八幡市安土町下豊浦/東近江市南須田町)
天主台周辺地区～天主台東面・北東面、本丸取付台中央部

調査面積 456㎡

滋賀県では、令和4年度に『特別史跡安土城跡整備基本計画』を策定し、20年計画で環境整備等の事業を実施することとしています。今年度は、昨年度に引き続き、天主台周辺地区の環境整備の設計に関わる資料を得るため、天主台東面・本丸取付台中央部において発掘調査を実施しています。



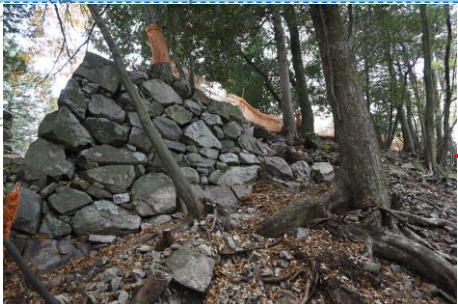
調査区位置図

令和6年度 (令和5年度)

令和6年度調査区と 周囲の調査状況

【見どころ④】天主台石垣 の修復状況

今まで、天主台の石垣は前面に堆積した土石の整理が行われているだけで、石垣の積み直しは行われていないと考えられていました。しかし、今回の調査によって、天主台東面の南端では石垣の一部が積み直されている可能性が高いことがわかりました。



④積み直しと考えらる石垣



①取付台建物を区画する石列

【見どころ①】建物を区画する石列

今年度の調査で、建物の南端を区画すると考えられる石列を検出しました。昨年度の調査で検出した石列とあわせて建物規模を想定する大きな手がかりとなります。石列の上部構造については不明ですが、石列の内側に存在する石と合わせて土塀の基礎となる可能性などが考えられます。

②発見した建物と礎石

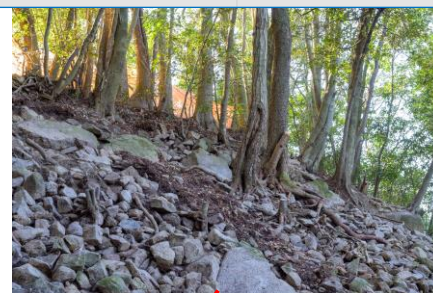
【見どころ②】巨大な礎石で構成される建物跡

昨年度の調査で検出した礎石列上で新たな礎石を検出しました。確認できた建物の規模は昨年度の調査と合わせて、東西約9.5m×南北約17.5mになります。柱間は6尺5寸を基準としていますが、礎石の大きさや向きは一定ではなく、建物の性格を考える上で大きな手がかりとなりそうです。

【見どころ③】天主台石垣の崩落状況

昨年度の調査と合わせて天主台の東面と北東面での石垣の崩落状況をし、転落した築石と栗石が石垣前面に広く堆積する様子が確認できました。また、北東隅角では算木積みが用いられています。また、残存する石垣は天端の高さが一定に揃っており、人為的に崩されたと考えられます。

③天主台の石垣の最上部(破城か?)



③天主台北東面

天主台裾想定位置

伝本丸北虎口

主郭北虎口と天主台北側の通路に通じる虎口。階段の踏み石と、溝状の石組を確認している。

